特集 座談会 ～働きながら家庭も大切に～

今回は、家庭を大切にしつつ、お仕事でも輝いている女性に、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）をどのように実践しているのか、お話を伺いました。

自己紹介

堀越●私は、足利赤十字病院のリハビリテーション技術課に歯科衛生士として働いています。人として生きていく上で「口から食べること、摂食嚥下（せっしょくえんげ）」が大事だと感じ、取り組む場を求めて現在に至り、足利歯科衛生士会会長としても活動しています。子どもは3人で、夫とお姑さんの6人家族です。現在は、2人の子どもが離れて暮らしています。

石川●祖父の会社に勤めています。2012年果実酒の免許を取得して、同会社でワイナリーを始めました。翌年結婚して2014年に第1子が誕生しました。夫は、東京勤務で自宅は、埼玉県久喜市です。普段は、足利市、週末は久喜市に帰るという生活です。大学進学時、醸造家になりたいと発起し、2000年にワイン醸造コンサルタント会社に勤めて修行してきました。他に、NPO理事として地域の活性化のために情報発信しています。

内田●夫と14年前に美容室をオープンし、ずっと2人で仕事をしてきましたが、夫が40歳を迎え新しいことを始めたいと言い出しました。初めて従業員を4人雇い入れて、「ヘアカラー専門店」を6月にオープンしました。娘2人の4人暮らしです。

子どもを育てながら仕事をするのに、心がけていること

内田●結婚してすぐ子どもに恵まれたので、以前の店を退職しました。その後、夫が開業するにあたり、手伝うために子どもを生後11か月で保育所に預けることになり、すごく悲しかったです。家族の支えがありましたが、子どもが帰った時に、「お帰り」と言ってあげたくて自宅を職場にしました。土日が休めないので、夫と衝突してしまうこともありました。

石川●私は、今年の3月末まで育休を取っていました。NPOの仕事で夜も出かけることが多いです。その際は、子どもを実家で預かってもらいます。土日にワイナリーを営業するときは、夫が手伝ってくれます。寝かしつけ以外は、全部こなしてくれるんですよ。実家の支えと夫の助けでここまできました。

堀越●ずっと歯科衛生士の仕事を続けています。上の子のときは、パート勤務。すごく小さかった時は、歯科検診、休日診療所などで、育児を優先した勤務にしていました。実母が、全面的に応援してくれて、授乳期にも冷凍母乳を使って手伝ってくれました。母乳で育てていたので、子どもがすぐ起きてしまうため、夫とは寝室を別にしていました。現在は、夫が、全面的に協力してくれ、遠方の会議の時は、車の運転をしてくれて、私の身体を気遣ってくれます。

家族の役割分担

堀越●私が、料理です。お姑さんは、夜のご飯を炊いてくれます。干渉しないお姑さんで助かっています。ゴミ出しと洗濯は、夫が手伝ってくれます。

足利歯科衛生士会会長　堀越悦代（ほりこしえつよ）さん

石川●日帰り出張の時は、子どものことを妹が手伝ってくれています。父母、妹の4人で一緒に仕事をしていますので。土日は、夫が助けてくれます。

内田●子どもが、保育所のときは、近所に住むお姑さんが、助けてくれました。夫は、洗濯物干しなど、家事は殆ど手伝ってくれます。夕食は私が作ります。

苦労したこと

堀越●仕事と家庭の両立ですね。子どもが、具合が悪くなったときや、3番目を保育園に預けていくとき泣き叫ばれることが辛かったです。子どもが、インフルエンザにかかってしまったときも急には休めませんでした。

また、40代になって日赤に入り、電子カルテを覚えるのに苦労しています。歯科衛生士会が主催で行う事業等や歯科医師会との連携も増え、会長としてまとめなくてはならない、プレッシャーもあります。

石川●醸造家は、葡萄が出来たら仕事をしなくてはなりません。産後の仕事復帰も早かったです。10月には、葡萄が入ってきます。濡れますし、20～30kgのものを運ぶ肉体労働です。子どももいるので大変。母に預けて仕事場へ行こうとするのですが、泣いていると、抱っこ、おんぶ紐で仕事場へ向かいます。私自身、一定の期間は、微生物の生活しやすい環境を保つため、横になる時間は、わずかしかありません。微調整が難しい。また、12月には、重労働の負担が膝に出てしまい、痛みに苦しみました。授乳しているので、鎮痛剤を使えないのが辛かったですね。

ワイン醸造家　石川春香（いしかわはるか）さん

内田●もう一軒の店を持つにあたり、従業員集めに苦労しました。美容師も歯科衛生士さんのようにやめてしまう人が多いです。ボーナスもない地味な仕事ですし、拘束時間が長いせいもあるかもしれません。日曜日休みの9時から夕方6時までの美容室にしました。子どもと過ごしたいというのがあるのですね皆さん。また、子どもが病気のときは、大変でしたね。

今後の抱負、目標

堀越●歯科衛生士は、国家資格なのに結婚したらやめてしまう人が多いのも残念です。人間は、生活していく上で、口がものすごく大事です。健康寿命にも深く係わりがあります。少しでも多くの方が、子育てが落ち着いたら復帰し、一生の職業として誇りと目標を持って活動してもらいたいですね。

足利市民の健康のため一緒に活動してくれる「歯科衛生士」をもっと増やしたいです。臨床の歯科医院に勤めている方は、経験や知識を蓄えて、検診や公衆衛生指導に係わってもらいたいです。最近、他にももっと手を差し伸べる必要がある方がいるのではないかと考えることがあります。障がい児・者だったり、緩和だったり。歯科衛生士の職域も広域です。食べられる口をつくる歯科衛生士の仕事に誇りをもっています。また、健康寿命を延ばすお手伝いをすることによって、医療費削減にも貢献したいです。

石川●家業を続けていくのが目標です。少子化の影響で、従来の主力商品だったラムネ、シロップの消費が減少したので、ワイン造りを始めました。今、ワインの消費が伸びているので頑張り時です。私は、100年後を見ています。次のそのまた次の世代に繋ぎたいのです。日本に女性醸造家は、10人いません。子どもを持っている人は3人ほどです。醸造家になりたい女性が増えるといいですね。ワインは、女性に好まれていますしね。ワイン造りは、日本国内だけではなく、世界が相手です。ワインは、作ったときから世界と戦っているのです。出荷は、すぐに、1年のサイクルで出していきたいです。

内田●私たち夫婦は、常連のお客様も持っているし、自分たち家族が暮らしていけるだけ稼げればいいと最近まで思っていました。でも初めて、「野望」というものを持ちました。新店舗をオープンするにあたり、従業員の生活を守るため、少しでも多くのお客様が来てくれるように、新店舗の周知宣伝など頑張りました。「人のためならこんなに頑張れるんだね。」と夫と笑いました。15歳になった娘が、美容師になりたいと言ってくれて、とても嬉しかったです。

美容室a.t's代表　内田明子（うちだあきこ）さん

自身の職業に誇りと向上心と情熱を持ち、また、経営者として責任の重さをひしひしと感じて、今までは考えられなかったアクションを起こしたり…。家族や、周囲の方々も思わず応援したくなってしまうような魅力に溢れた皆さんでした。これからも、悩み、苦しみ、辛さを経験されると思いますが、全て肥やしとなって自信に満ちた輝きに変えて行かれることでしょう。

（T・M）